

神奈川県金融経済概況（2018年10月）

I. 概況

神奈川県の景気は、緩やかに拡大している。

輸出と設備投資は増加している。個人消費は、雇用・所得環境が着実に改善するもとの、持ち直している。住宅投資は横ばい圏内の動きとなっている。公共投資は増加している。こうした中、生産は横ばい圏内の動きとなっている。この間、企業の景況感は改善している。

金融面をみると、貸出、預金ともに引き続き増加している。

II. 実体経済

(1) 輸出： 増加している。

- ・ アジア向け半導体等製造装置や金属加工機械のほか、北米向け建設機械や自動車部品などを中心に増加している。この間、18/9月短観における18年度の輸出計画（製造業）は、前回調査比上方修正され、高い水準であった前年度並みとなっている。

(2) 生産： 横ばい圏内の動きとなっている。

- ・ 輸送機械は、国内向けトラックが増加している一方、新興国向けトラックが低調なほか、乗用車も弱含んでいるため、横ばい圏内の動きとなっている。
- ・ 素材関連は、化粧品や自動車向け製品等が増加している一方、生産設備の一時的な点検や補修等の影響がみられるため、横ばい圏内の動きとなっている。
- ・ 電気機械は、自動車向け製品等が増加している一方、発電施設向け機器の減少や生産移管の影響などから、弱含んでいる。
- ・ はん用・生産用・業務用機械は、金属加工機械や半導体等製造装置を中心に増加している。

(3) 設備投資： 増加している。

- ・ 18/9月短観における18年度の設備投資は、製造業、非製造業ともに前年度を上回る計画となっている。

(4) 雇用・所得環境： 労働需給が引き締まりを続けているほか、所得環境も着実に改善している。

- ・ 18/8月の有効求人倍率（勤務地ベース）は、前月から低下したものの、引き続き高い水準となっている。こうしたもとで、常用雇用者数と名目賃金は増加基調にあり、雇用者所得は着実に改善している。

(5) 個人消費： 持ち直している。

- ・ 百貨店売上高は、化粧品や高額品（時計、ブランド品等）が伸長しているものの、ウエイトの大きい衣料品や食料品が低調であるため、弱めの動きとなっている。
- ・ スーパー売上高は、生鮮食品や惣菜商品を中心に緩やかに持ち直している。
- ・ 家電販売額は、テレビやカメラ類が前年割れとなったものの、買替需要を背景に白物家電や携帯電話が堅調なことなどから、持ち直している。
- ・ 新車登録台数は、主力車種のモデルチェンジや新型車投入効果などから、持ち直している。

《参考》

- ・ 県内観光の動向をみると、横浜市内のホテルを中心に宿泊施設の客室稼働率は高い水準で推移している。県内の観光施設では、天候不順の影響が一部にみられたが、利用者数は全体として底堅い動きとなっている。

(6) 住宅投資： 横ばい圏内の動きとなっている。

- ・ 18/8月の新設住宅着工戸数は、分譲戸建てと貸家が減少した一方、分譲マンションと持家が増加し、全体では前年を上回った。

(7) 公共投資： 増加している。

- ・ 18/9月の公共工事請負額は、市町村や県などが増加したものの、独立行政法人などが減少したことから、全体でも前年を下回った。

Ⅲ. 金融情勢

(1) 貸出： 引き続き増加している。

- ・ 県内金融機関（銀行、信金）の貸出をみると、引き続き増加している。個人向けは住宅ローンを中心に引き続き増加しているほか、法人向けも不動産業を中心に増加している（貸出金末残前年比：7月+1.8%→8月+1.7%）。
- ・ この間、貸出約定平均金利は、緩やかな低下傾向にある（月末貸出約定平均金利：7月1.140%→8月1.142%）。

(2) 預金： 引き続き増加している。

- ・ 県内金融機関（銀行、信金）の実質預金をみると、個人預金および法人預金ともに前年を上回っており、引き続き増加している（実質預金末残前年比：7月+2.6%→8月+2.2%）。

以 上

「神奈川県金融経済概況」は、金融経済統計および企業等へのヒアリング調査を踏まえて作成しています。